

書誌第102号追

# 本州北西岸水路誌

追補第5

令和6年(2024)7月12日発行



海上保安庁

# 本州北西岸水路誌

## 追補第5

この追補は、令和4年3月刊行の本州北西岸水路誌の記載事項を更新するもので、令和6年6月7日までに入手した資料を基に編集したものです。

追補は、更新情報を記載した「本文」と、それを検索するため、ページ番号等を記載した「索引」から構成されています。

「索引」については、更新箇所の表題や港名等を記載し、ページ番号順に並べています。

「本文」については、本追補の更新箇所は、灰色背景で赤色文字にて示しています。

【】で囲んだ内容は、削除や差し替えを行うことを意味しています。

図の挿入等によりページ内に収まらない場合は、水路誌本誌とのページ番号を整合させるため、追補においては、便宜的に枝番号を付しています。

令和6年7月12日

## 海上保安庁海洋情報部

### 注 意

海上保安庁は、各国が発布した諸法規、宣言、海図及び水路通報・航行警報並びに船舶等からの視認報告のうち、船舶交通の安全の確保と海洋環境の保全という観点から、航海の安全及び環境保全に影響を与える可能性のある情報については、水路通報及び航行警報により周知するほか、海上保安庁の海図その他の航海用刊行物にも掲載するようにしています。

これらの情報を利用するにあたっては、海上保安庁によるこれらの情報提供は、航海の安全等のための利用を目的としており、その内容は日本政府がこれらの諸法規、宣言等を承認したことを意味するものではない点に留意してください。

ページ	更新箇所(表題、港名等)	備考
6	気象情報	
12	水先人会	追補第2の当該ページは無効
13	水先人会	
53	仙崎港	
54	仙崎港	
56	萩港	追補第3の当該ページは無効
59	高山岬～浜田港	
61	三隅港 浜田港	
62	浜田港	追補第4の当該ページは無効
63	浜田港	
64	温泉津	
65	温泉津	
69	七類港	
73	浦郷港	追補第4の当該ページは無効
74	別府港	
77	西郷港	追補第1の当該ページは無効
82	境港	追補第3の当該ページは無効
87	安来港	
91	網代港	
103	金ヶ岬～博奕岬	
114	敦賀港	追補第3の当該ページは無効
118	福井港	
120	金沢港	追補第2の当該ページは無効
121	金沢港	
141	伏木区及び付近	追補第4の当該ページは無効
143	新湊区及び付近	追補第2の当該ページは無効
149	直江津港	追補第3の当該ページは無効
150	直江津港	追補第3の当該ページは無効
153	寺泊港	
154	新潟港	
156	新潟港西区及び付近	
157	新潟港西区及び付近	
158	新潟港西区及び付近	追補第3の当該ページは無効
159	新潟港東区及び付近	追補第4の当該ページは無効
167	小木港 新潟港～酒田港	追補第1の当該ページは無効
177	秋田船川港秋田区	追補第4の当該ページは無効
178	秋田船川港秋田区	追補第3の当該ページは無効

**快晴日数** 地域によって違いがあるが、一般に南西部に多く、鳥取・島根では年平均快晴日数は約 16 日、北東部の青森・秋田・新潟では約 12 日である。

春季～秋季には快晴日数が多くなり、各地とも 5、8 月及び 10 月に多く、梅雨及び冬期に少なくなる。

**雷** 敦賀、金沢、輪島など若狭湾の東岸から能登半島付近及び新潟、酒田、秋田などの地方に多く、これらの地方の年平均雷日数は約 35 日であり、季節的には晩秋～初冬及び夏季に多い。また、舞鶴以西の年平均雷日数は約 24 日で、夏季に集中する傾向がある。

## 気 象 情 報

**全般海上警報** 気象庁は北西太平洋の 100° E～180° E、赤道～60° Nの海域を対象として、全般海上実況・予報・警報を発表している。これらの情報はセイフティネットや漁業無線気象通報によって放送されている。また、気象無線模写通報(JMH)で放送しているものもある。

セイフティネットとは、国際海事機関(IMO)が管理する海上安全情報の国際的な放送システムであり、気象庁は世界の海を 21 に分けたセイフティネット区域のうち北西太平洋区域の警報と概況及び台風予報を 1 日 4 回 (0530、1130、1730 及び 2330 (JST) )、インマルサット C システムの高機能グループ呼出セイフティネット (EGC Safety NET) により、インマルサット太平洋衛星経由で放送している。これらの定時放送のほか、風速 48kn 以上の台風が存在するか、あるいは 24 時間以内に予想される場合には、定時放送の 3 時間後に臨時警報を放送する。

**地方海上警報** この水路誌の記載区域及び周辺の海域に関係する担当気象台が発表する警報は、海上保安庁の海岸局から無線電話、NAVTEX 及び漁業無線気象通報により随時及び定時に送信される(第 1 編 総記、第 8 章 海難防止、海上保安庁の通信業務の項参照)。

**天気図等** 気象庁が作成した天気図類は、気象庁 気象無線模写通報(JMH)により放送されている。

呼出符号	電波の型式	周波数 (kHz)
JMH	F 3 C	3622.5
JMH2		7795
JMH4		13988.5

その他、各種気象情報が NHK ラジオ第 2 放送、共同通信社からファクシミリ放送などによっても提供されている。

**船舶気象通報** プレジャーボートや漁船等の操縦者、海水浴や釣り等のマリンレジャー愛好者の方々に対して、全国各地の主要な岬の灯台等航路標識 132 か所において、局地的な風向、風速、気圧及び波高の気象・海象の観測を行い、その現状をテレホンサービス及びウェブページにより提供している。

船舶気象通報を行う航路標識の名称、気象観測項目等は書誌第 411 号「灯台表第 1 巻」に記載してある。

各港湾付近及び陸岸寄りの灯光による航路標識は、背後の灯火及び漁火などにより見えにくいことがある。

**浮標式** 日本国内では、IALA(国際航路標識協会)海上浮標式(B方式)を採用している。

**水源** 主航路から港湾に接続する航路は港湾側を、また港湾内における航路については、通常船舶が停止して荷役するところを、左舷標識及び右舷標識の方向の基準となる“水源”と定めている。

## 第 6 章 水 先

### 水 先 区

水先区とは、水先法の適用される区域で、名称及び区域は政令で定めるものをいう(水先法第 33 条、同法施行令第 3 条)。この水路誌の記載区域内の水先区は、次表のとおりである。

水 先 区	区 域
境	境港の区域
舞 鶴	舞鶴港の区域
七 尾	七尾港及び付近
伏 木	阿尾鼻〔氷見港北部〕と魚津港北区北防波堤灯台とを結んだ線以南の区域
新 潟	新潟港の区域
酒 田	酒田港の区域
秋 田 船 川	秋田船川港の区域

5

### 水 先 人 会

各水先区における水先人会の概要は、次表のとおりである。

名称及び連絡先	乗 船 地 点	備 考
境水先区水先人会 TEL 0859-30-2124 FAX 0859-30-2128	1 大型旅客船、大型チップ船 35° 33.0' N 133° 19.0' E 付近 2 その他の船舶 35° 32.5' N 133° 18.6' E 付近	・水先人用はしごは、 <b>特に要請しない限り、左舷側の水面上1mに用意すること都度代理店より要請する。</b> ・検疫錨地は大型船の錨地には適さないので、錨泊する場合は、35° 32.5' N 133° 18.6' E 付近を勧める。 ・美保湾は、避難地として多くの船舶が避泊し、一般船水先人乗船場所が占有されることが多いため、泊地 <b>確保は早め</b> に確保すること。 ・境港防波堤灯台から143° <b>1.92Mを中心とする半径付近</b> に養殖筏があるので注意すること。
舞鶴水先区水先人会 TEL 0773-77-5587 FAX 0773-77-5587	35° 33.1' N 135° 19.4' E 付近	水先人用はしごは、風下舷に用意すること。
七尾水先区水先人会 TEL 0767-53-1192 FAX 0767-53-1193	荒神鼻上、能登島指向灯を 258.8° とする線上、次の 2 か所が設定されている。 ・3 万総ト未満の船舶 37° 07.4' N 137° 05.6' E 付近 ・3 万総ト以上の船舶 37° 07.6' N 137° 07.0' E 付近	・入港時 VHF による連絡が可能である。 ・夜間、港口に接近する場合は、少なくとも 3M 沖合から能登島指向灯の白光を視認航行し、針路左右の漁網に十分注意すること。 ・港内及び港口付近の航行水路内では通年にわたり、魚索等が多数ある。

<p>伏木水先区水先人会 TEL 0766-44-0173 FAX 0766-44-3391</p>	<p>1 伏木区及び新湊区に入港する船舶は、伏木港西防波堤灯台から 029° 2.5M 付近 (概位 36° 49.9' N 137° 5.5' E)</p> <p>2 富山区に入港する船舶は、富山錨地付近 (富山港東防波堤灯台から 015° ~020° 0.8~1M 付近) (概位 36° 46.8' N 137° 14.0' E)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・富山区における海図記載の検疫錨地は、水深不十分であり、北風がある場合は急速に波浪が起こり危険であるので、大型船には不適である。</li> <li>・富山湾内には定置漁網が多数あり、陸岸 3M 付近以内に接近する場合は厳重な注意を要する。</li> </ul>
<p>新潟水先区水先人会 TEL 025-244-2320 FAX 025-244-9551</p>	<p>1 新潟港西区入港の船舶 (1) 検疫錨地付近 (新潟港西区西突堤灯台から 303° 1.5M 付近) (2) 危険物積載大型船錨地 (新潟港西区西突堤灯台から 284° 1.8M の地点を中心とする半径 800m の円内海域)</p> <p>2 新潟港東区入港の船舶 (1) 新潟港東区第 2 防波堤灯台から 005° 1.5M 付近 (概位 <del>38° 02.2' N 139° 14.3' E</del>) (2) 危険物積載大型船錨地 (新潟港東区西防波堤灯台から 252° 1.8M の地点を中心とする半径 800m の円内海域)</p> <p>3 LNG 船 新潟港西区第 2 西防波堤先端から 290° 1.4M (概位 37° 59.0' N 139° 03.0' E)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・四季を通じて乗下船は舷梯を使用せず、必ずパイロットラダー又はコンビネーションラダーを使用する。</li> <li>・パイロットラダー又はコンビネーションラダーは風浪、うねりを遮蔽する側に用意すること。</li> <li>又、乗船前に静穏な水面を作るため船速の増減、舵の操作を依頼することがある。</li> <li>・錨泊していた船舶は、水先人の乗船が可能な時は抜錨してリーサイドをつくり、乗船に備えること。</li> <li>・パイロットボートには VHF 無線機を設置しており、乗船指定時の約 45 分前から開局する。必要であれば、16ch (ニイガタパイロット) で呼び出し、通常 06ch で交信する。なお、新潟港にはボートラジオ局はない。</li> <li>・入港は原則として日出時から日没時いわゆる DAY TIME とする。</li> <li>・出港は次日の作業を考慮し原則として 21:00 までとする。</li> <li>・気象・海象が操船に不適當な次の状況にあるときは業務を見合わせる。</li> <li>(1) 風速 15m/s 以上の強風の時。但し、LNG 船・LPG 船等、個別の安全基準がある船はそれによる。</li> <li>(2) 視程が 1,000m 以下の時。</li> <li>(3) 津波、又は暴風警報が発令され突風等が予想される時。</li> </ul>
<p>酒田水先区水先人会 TEL 0234-43-8306 FAX 0234-43-8309</p>	<p>1 3 万総ト未満の船舶 酒田港南防波堤灯台から 254° 1,090m 付近</p> <p>2 3 万総ト以上の船舶 上記灯台から 246° 3M 付近 (概位 38° 55.0' N 139° 44.0' E)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・四季を通して舷梯を使用せず、必ず水先人用はしごを使用すること。</li> <li>・冬季節風が強く波浪の高い場合は、抜錨後、水先人乗船予定時刻までに乗船場所付近まで進入し、風下舷側中央部に水先人用はしごを用意すること。</li> <li>・冬期は圧流のおそれがあるので、あまり港口付近に近寄らないこと。また、夜間錨泊中に強風 (15m/sec 以上) のときは走錨に充分注意すること。</li> </ul>
<p>秋田船川水先区水先人会 TEL 018-845-3178 FAX 018-845-7661</p>	<p>1 秋田区 秋田北防波堤灯台から 295° 5,500m (概位 39° 47.4' N 139° 58.2' E)</p> <p>2 船川区 船川防波堤灯台から 138° 4,300m (概位 39° 50.7' N 139° 54.0' E)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・秋田区の陸岸寄り 3M 以内には漁網等があるので注意すること。</li> <li>・05:00~09:30 の時間帯に大型フェリーが出入りするので、秋田船川港における港内交通の原則 (問合せ先: 秋田海上保安部) を遵守すること。</li> <li>・秋田湾の略中央付近に 3 箇所の漁礁が存在するが、漁礁上の通過航行は差し支えない。ただし、投錨は禁止されている。</li> </ul>

### 青海島対景写真

北方から青海島東部を望む



### 仙 崎 港 (34° 23.5′ N 131° 12.8′ E) (海図W1177) (JP SZK)



(2020年6月撮影)

**港種** 港則法適用港

**概要** 仙崎湾の南西部にある港で漁港でもある。仙崎瀬戸によって西方の深川湾 (34° 24.2′ N 131° 09.4′ E) に通じ、港口の幅は約 0.7M で南方へ約 1.5M 湾入、四方の風をよく防ぐ。港内中央付近の水深は 9m 前後、底質は泥又は砂泥であり、沖防波堤付近は水深 5m 以下の浅瀬が広がっている。この港は、石灰石積出しのための船舶 (1,000~16,000 t 級船舶) の出入港が多い。

仙崎瀬戸は、沿岸航路の小型定期観光船 (喫水 1.8~3m) の常用航路となっているが、可航幅が狭い。また、西口の沿岸部に浅瀬が広がっている。

**潮流** 仙崎瀬戸では、上げ (下げ) 潮流は低 (高) 潮の 2~3 時間後から高 (低) 潮の 2~3 時間後まで東 (西) 方へ流れ、流速は 1.3kn を超える。

#### 目標

地物名	概 位	備 考
青海大橋	34° 23.9′ N 131° 11.9′ E	高さ 12m、夜間は橋上に多数の水銀灯を点ずる。
漁業協同組合	34° 23.5′ N 131° 12.0′ E	白塗、4階建、屋上に無線塔、北側に2基の無線塔がある。

**架橋** 仙崎瀬戸に青海大橋 (目標の項参照) がある。

**針路法** 大島 (34° 24.9′ N 131° 16.1′ E) 南方から 270° で航行し、望ヶ鼻〔屋海鼻〕屋海《ヤカ

**ワ** 鼻 北方付近から沖防波堤南灯台付近に向首する。

**港湾施設** 港内北西部に防波堤及び岸壁に囲まれた船だまりがある。

**錨地** 養殖施設のある海域を除き、5,000 t級の船舶が錨泊できる。港内の東部は避泊に適するが、北東風のときは波浪が侵入するので、錨泊には注意が必要である。

**台風・津波等の異常気象時の対策** 本港では、台風・津波襲来時等、異常気象時における事故を未然に防止するため、長門市船舶安全対策協議会が設置され、在港船舶等に対し、異常気象時における各船舶がとるべき措置を定めている。

また、異常気象時においては、海上保安部長から、異常気象時における各船舶がとるべき措置について、港則法に基づく勧告等がなされることがあることから、留意すること。(問合せ先：仙崎海上保安部)

#### 海事関係官公署

官公署名	連絡先
仙崎海上保安部	0837-26-0241

**補給** 給油船がある。

**修理** 造船所があり、最大 50 t まで修理できる。

#### 医療施設

名称	電話番号	備考
長門総合病院	0837-22-2220	
岡田病院	0837-23-0033	

**海上交通** 青海島周遊の観光船があり、漁港船だまり内で発着する。

### 六島《ムツシマ》諸島 (34° 29.9' N 131° 21.1' E) (海図W1177)

**概要** 萩港の沖合広く散在する相島、大島などの六つの島は、通称**六島諸島**と呼ばれている。これらの島々はいずれも島頂が平らで、玄武岩の険しい海食がけが顕著である。

**海流** 萩港の沖合いでは、北東方へ流れる弱い海流がある。

**相島** (34° 30.5' N 131° 16.7' E) この付近の沿岸中で、最も外方の島である。長さ、幅とも約 2.4km で、島頂 (高さ 157m で平円) は中央よりやや西にある。

島の北端の**通ヶ鼻**、南部の相島漁港 D 防波堤の南端に灯台があり、沿岸は距岸 400m 以内に多数の小島や諸岩が沿布し、南端付近にある**男柱《オンバシラ》** (高さ 43m、石柱状) は顕著である。島の南部に村落がある。

**尾島** (34° 30.1' N 131° 20.4' E) 円形の小島 (高さ 71m) で、松が茂る。

**櫃《ヒツ》島** (34° 30.9' N 131° 23.3' E) 高さ 90m で、少数の人家がある。南岸に**櫃島港**がある。

**大島** (34° 29.9' N 131° 24.9' E) 高さ 123m で、南岸に村落がある。赤穂瀬南防波堤の外端に灯台がある。

**肥島** (34° 29.1' N 131° 22.8' E) 高さ 56m で、松が茂る。

**羽島** (34° 27.9' N 131° 22.6' E) 高さ 22m で、松が茂る。

**羽島礁** (34° 29.1' N 131° 21.5' E) 尾島の南東方約 1M、尾島と肥島とのほぼ中間にある孤立礁で、最小水深は 3.6m、周囲は急深である。

## 針路法

### 1 西方から

相島の南方約1.8Mの所から、針路090°で羽島北端に向首して進み、尾島の西端正横から針路130°で港の中央に向かうとよい。この場合、ツバ瀬(34°26.1' N 131°21.1' E、灯標がある)及び観音喰合瀬(34°26.7' N 131°23.3' E、灯浮標がある)に注意を要する。また、この針路は、田床山山頂のテレビ塔と萩港浜崎北防波堤灯台とのほぼ見通し線上にある。

### 2 北方から

相島、尾島間のほぼ中央を南下し、以後1の針路法による。

### 3 東方から

櫃島～大島、肥島～大島間及び肥島～羽島間のほぼ中央を適宜通過し、港口中央に向かう。また、尾島～肥島間は、ほぼ中央に羽島礁(34°29.1' N 131°21.5' E)(水深3.6m)があるので通航しないほうがよい。

**入港上の注意** 船引き網漁業が行われ、狐島の東方の潟港(34°26.4' N 131°25.1' E)入口付近及び松ヶ鼻西側(34°25.6' N 131°24.1' E)西側付近で、操業することがあるので注意を要する。

**水先** 水先法という水先区ではないが、潟港に4,000t級の木材船が入港する場合は、関門水先区水先人会(TEL:093-332-2384)が要請に応じる。水先人乗船地点は、笠山の南西方1.1M付近である。

## 港湾施設

名称	概位	長さ(約m)	水深(約m)	係船能力(t×隻)	備考
-4m岸壁	34°25.7' N 131°24.9' E	延長445	1~2	—	萩(中小畑)漁港、突堤南側
潟港岸壁	34°26.2' N 131°25.2' E	110	5~6.5	3,000×1	
-4m物揚場		38	5.5	—	潟港岸壁の東側
-4m岸壁	34°26.8' N 131°24.6' E	157	3~5	—	萩漁港(越ヶ浜)

**錨地** 小畑浦、中小畑浦及び菊ヶ浜前面は底質が泥又は細砂であるが、北西の風が10m以上になると走錨のおそれがある。

潟港の中央部は四方の風を防ぎ避泊地として最適であるが、狭いので錨泊する船舶は500t程度が限度である。

**台風・津波等の異常気象時の対策** 本港では、台風・津波襲来時等、異常気象時における事故を未然に防止するため、萩港台風・津波対策協議会が設置され、在港船舶等に対し、異常気象時における各船舶がとるべき措置を定めている。

また、異常気象時においては、港長から、異常気象時における各船舶がとるべき措置について、港則法に基づく勧告等がなされることがあることから、留意すること。(問合せ先：萩海上保安署)

## 海事関係官公署

官公署名	連絡先	官公署名	連絡先
萩海上保安署(港長)	0838-22-4999	門司税関下関税関支署萩出張所	0838-25-5120

**補給** 清水の補給ができる。給油船がある。

## 医療施設

名称	電話番号	備考
萩市民病院	0838-25-1200	

**海上交通** 見島、相島及び大島に至る旅客船便またはカーフェリー便があり、浜崎商港から発着している。

## 高山岬～浜田港 (海図W149)

**概要** 高山岬～浜田港間の約 25Mの沿岸は、距岸約 1M以内に小島が点在しており、南西部にある高津川河口付近一帯の砂浜は顕著である。

中部に益田港 (34° 41.9′ N 131° 49.1′ E) (港則法適用港) (JP MSD)、三隅港などがある。

**潮流** この海岸付近の潮流は微弱である。

~~**漁業** 5～11月にかけて、高山岬～三隅港間の距岸 5～60M付近の所々にシイラ漬けが設置される。また、春季～秋季にかけて、浜田港付近の距岸 10Mから沖合の所々にシイラ漬けが設置されるので、付近海域を航行する船舶は注意を要する。~~

## 目標

地物名	概位	備考
三生《サンショウ》島	34° 41.4′ N 131° 42.0′ E	高さ 41m、円形の小島で周囲はがけとなっている。
魚待ノ鼻	34° 45.3′ N 131° 51.9′ E	灯台がある。
高島	34° 50.1′ N 131° 50.3′ E	高さ 117m、灯台がある。沿岸航行船の好目標
鹿島	34° 49.0′ N 131° 56.2′ E	高さ 25mの小島、頂に松と草が生えている。
大麻山	34° 49.3′ N 132° 00.4′ E	高さ 574m、沿岸航行船の好目標
馬ノ鞍	34° 52.0′ N 132° 00.4′ E	西方からは大きな岩のように見え、目立つ。

## 江崎港 (34° 38.8′ N 131° 38.6′ E) (海図W149 分図) (JP ESK)



(2020年6月撮影)

**港種** 港則法適用港

**概要** 高山の東側にある港で漁港でもある。

港口の水路は幅約 170mで港内は 5m以上の水深があり、南方へ 1M湾入する。漁船の出入が多く小型船の避泊地となる。

港湾施設

名 称	概 位	長 さ (約m)	水 深 (約m)	係船能力 (D/W×隻)	備 考
-7.5m岸壁	34° 47.0' N 131° 55.7' E	150	6.5~7.5	5,000×1	公共岸壁
-5.5m岸壁		90	5	2,000×1	

**台風・津波対策** 本港では台風異常気象その他による事故を未然に防止するため、浜田港等台風・津波等対策委員会を設置し、在港船舶などに対し、台風・津波等の情報伝達及び警戒体制・避難・入港制限の勧告・解除等の災害防止措置を指導している（問合せ先：浜田海上保安部）。

浜 田 港 (34° 53.4' N 132° 03.0' E) (海図W1175) (JP HMD)



(2020年7月撮影)

**港種** 特定港、開港、検疫港、出入国港、家畜検疫の港、植物防疫の港、重要港湾

**概要** 境港と関門港のほぼ中間にある港で漁港でもある。

港内は**商港区港湾区域**（南部）と**漁港区**（北部）とに分かれている。

**商港区港湾区域**は、木材船、セメント船及びコンテナ船の入港が多く、30,000 t級の船舶まで入港できる。

**漁港区**は日本海西部沿岸の有数な漁業根拠地であり、主に 300 t級の船舶が入港する。港口に馬島やその他の小島が散在して北方を囲っている。西寄りの風が強いときには、**商港区港湾区域**に避泊するとよい。

港内北東部に**外ノ浦**と**松原浦**がある。また、南西部に日脚《ヒナシ》浦がある。

**潮汐** この港における平均高高潮は0.5m、平均低低潮は0.2m、平均水面は0.29mである。

**副振動** この港には 15~20 分を周期とする海面の昇降があり、その昇降は 0.5mに達することがある。

**潮流** 浜田港口の潮流は、上げ（下げ）潮流は港内（港外）へ流れ、流速は微弱である。

目標

地 物 名	概 位	備 考
馬 島	34° 54.2' N 132° 02.9' E	高さ 52m、西端付近に灯台及び無線塔（高さ 100m、赤白塗）がある。
矢筈《ヤナ》島	34° 53.9' N 132° 03.1' E	高さ 54m
高 尾 山	34° 54.0' N 132° 04.1' E	高さ 77m、頂上に 2 基の無線塔がある。

三 階 山	34° 52.4' N 132° 05.0' E	高さ 379m、山頂の北北西方約 480m の山腹に 2 基の無線塔 (各パラボラアンテナ付、灰色、水銀灯を点ずる) がある。水銀灯は良い夜間目標である。
大島〔天神島〕	34° 52.7' N 132° 02.7' E	
8 サ イ ロ	34° 52.8' N 132° 03.4' E	セメント用
無 線 塔	34° 54.1' N 132° 04.5' E	高さ 101m、赤白塗

**架橋** 漁港ふ頭と瀬戸ヶ島間に、浜田マリン大橋 (34° 53.8' N 132° 03.7' E、高さ約 18m) がある。

**入港上の注意** 馬島～瀬戸ヶ島間を通航する場合は、潜堤や鶴島グリなどの險礁に注意する必要がある。馬島の北東岸から北東方へ延びる馬島防波堤がある。

漁港区へ出入するときは、防波堤が高いので行会い船の船体が隠れることがあるので注意する必要がある。

冬季は港口付近で、高波が立ち航行困難になることがある。海上平穏な日には、港口付近に多数の遊漁船と防波堤に釣り客を渡す瀬渡し船が出ている。

夜間入港時、小伊勢島 (34° 54.0' N 132° 02.2' E、高さ 1.5m) は馬島灯台の照射灯に照らされているが、北方及び東方からの接近時には視認しにくく、また西方からの港口への接近は港口と街の灯りが重なり、出港船等が視認しにくいので注意を要する。

**航泊制限** 引火性危険物積載タンカーの引火による事故を防止するため、一般船舶は、港内に停泊中の同タンカー (タンク船を含む) から 30m 以内の海面に立ち入ることが禁止されている。なお、同タンカーは、港内停泊中、夜間でも容易に視認しうる「引火性危険物積載中」の垂れ幕等を掲げている。

**水先** 水先法という水先区ではないが、水先類似行為者がいるので、浜田港運 (株) (TEL:0855-27-0072) を通じて申し込む。水先類似行為者は、検疫錨地で浜田港シャックリ灯標から 304° 0.5M 付近又は同灯標から 270° 0.6M で錨泊した船舶に乗船する。

**港湾施設** 商港区港湾区域には西側に長浜ふ頭、東側に福井ふ頭があり、漁港区には中央に漁港ふ頭がある。

#### 商港区港湾区域

名 称	概 位	長さ (約m)	水深 (約m)	係船能力 (D/W×隻)	備 考	
長 浜 ぶ 頭	1 号岸壁	34° 52.6' N 132° 02.7' E	185	9～9.5	15,000×1	
	2 号岸壁	34° 52.6' N 132° 02.6' E	130	6.5～7	5,000×1	
	3 号岸壁	34° 52.6' N 132° 02.8' E	70	5～7	1,000×1	
	4 号岸壁	34° 52.7' N 132° 02.6' E	90	6	2,000×1	
	1～3 号物揚場	34° 52.5' N 132° 02.5' E	延長 330	3～4.5	500×3	
長浜栈橋	34° 52.5' N 132° 02.6' E	120	北側 3～7.5 南側 3～7.5	—		
福 井 ぶ 頭	1 号岸壁	34° 52.7' N 132° 03.4' E	130	7～7.5	5,000×1	浅所を示す 2 灯付浮標がある。
	2 号岸壁	34° 52.7' N 132° 03.5' E	90	5～7	2,000×1	
	3 号岸壁	34° 52.9' N 132° 03.3' E	240	11～14	30,000×1	多目的クレーン 1 基
	4 号岸壁	34° 52.8' N 132° 03.3' E	170	8	5,000×1	ガントリークレーン 1 基

## 漁港区域

名称	概位	長さ (約m)	水深 (約m)	備考	
漁港ふ頭	-5m岸壁	34° 53.5' N 132° 03.9' E	230	4~5	卸売市場がある。
		34° 53.6' N 132° 03.8' E	420	4~5.5	漁港ふ頭の西側
	-4m岸壁	34° 53.7' N 132° 03.9' E	380	3~3.5	漁港ふ頭の東側
	-6m岸壁	34° 53.4' N 132° 03.6' E	570	5.5~6.5	

**最大入港船舶** 2019年8月4日、外国籍クルーズ客船 COSTA NEOROMANTICA (57,150 t、喫水 7.8m) が福井ふ頭3号岸壁に着岸した。

**錨地** 検疫錨地は、矢筈島の南側 (34° 53.3' N 132° 03.2' E) にある。

**錨泊上の注意** 港内に錨泊しようとする船舶は、錨地が極めて狭隘な状況にあり、新西防波堤東側かつ大島 (天神島) 北側の海域に商港区港湾区域へ出入する船舶の水路を避けて錨泊すること。この付近は水深 20m前後である。また、荷役待機又は避泊の場合は、できるだけ錨泊を避け岸壁に係留すること。

**台風・津波対策** 当港では台風異常気象その他による事故を未然に防止するため、浜田港等台風・津波等対策委員会を設置し、在港船舶などに対し、台風・津波等の情報伝達及び警戒体制・避難・入港制限の勧告・解除等の災害防止措置を指導している (問合せ先：浜田海上保安部)。

## 海事関係官公署

官公署名	連絡先	官公署名	連絡先
浜田海上保安部 (港長)	0855-27-0770	神戸植物防疫所広島支所	(広島市) 082-251-5881
神戸税関浜田税関支署	0855-27-0366	島根県浜田港湾振興センター	0855-27-0088
広島検疫所浜田出張所	広島検疫所 (本所) 082-251-4785 へ連絡		

**引船** 引船がある。

**補給** 清水及び氷の補給ができる。給油船がある。

**修理** 瀬戸ヶ島東側及び漁港ふ頭の南側河口西側に、上架能力 100 t の造船所がある。

## 医療施設

名称	電話番号	備考
国立病院機構浜田医療センター	0855-25-0505	

## 浜田港～日御碕 (海図W149)

**概要** この沿岸の約 45Mは砂浜も多く、江津港 (35° 01.8' N 132° 13.7' E) (港則法適用港) (JP GOT)、温泉津港、仁万港 (35° 09.6' N 132° 23.9' E、海図W1176A) (港則法適用港) (JP NIM)、久手港 (35° 13.9' N 132° 29.9' E) (港則法適用港) (JP KUT)、などの小港が続き、距岸 0.5~1Mで水深 20m以上となる。

日御碕南西方約 1Mの艦《トモ》島 (35° 25.3' N 132° 36.6' E) 東方の小亀島の礁脈と東南東方対岸の追石鼻 (35° 25.1' N 132° 37.4' E) 付近の険悪地との間に、幅約 400mの水道がある。

**潮流** この付近の潮流は微弱である。

温泉津港口の沖合では、南西流 (上げ潮流) は、低潮の約 40 分後から高潮の約 40 分後まで、北東流 (下

げ潮流)は、高潮の約40分後から低潮の約40分後まで流れ、流速は0.5kn以下である。

大社港の西南西方約3Mの所では、上げ(下げ)潮流は南方(北方)へ流れ、流速は0.5kn以下である。

日御碕の西方約1Mの所では、上げ潮時に0.8knに達する南流を測定したことがある。

**漁業** この沿岸で、5月20日～7月20日の間、飛魚の流し刺し網漁業(距岸5～10M、ただし、距岸2Mを除く。)定置網が設置されている。また、春季～秋季にかけて、距岸10～55Mの所々に竹製のシイラ漬けが設置されるので、沖合を航行する船舶は、注意を要する。

#### 目標

地物名	概位	備考
赤鼻	34° 57.2' N 132° 06.8' E	赤土色のがけ
大崎鼻	34° 58.6' N 132° 09.1' E	石見大崎鼻灯台がある。付近に海底線陸揚げ地点表示用の2基の立標(各オレンジ色塗)がある。
島ノ星山	34° 59.1' N 132° 14.3' E	高さ470m、山頂に無線中継塔(パラボラアンテナ付)がある。
室神山	35° 01.6' N 132° 15.8' E	高さ246m、円すい形
高山	35° 06.8' N 132° 24.2' E	高さ499m、山上に無線塔(パラボラアンテナ付、灯を点ずる)がある。
大崎ヶ鼻 〔大岬〕	35° 11.3' N 132° 25.1' E	大岬灯台がある。
弥山《ミセン》	35° 24.3' N 132° 42.2' E	高さ496mの鋭峰、南西～西方からは目立つ。
日御碕	35° 26.0' N 132° 37.8' E	灯台がある。岬の付近には大小の岩が散在する景勝地。

#### 温泉津《ユノツ》港 (35° 05.9' N 132° 20.1' E) (海図W1176<sup>A</sup>)



(2020年7月撮影)

**概要** 浜田港の北東方約20Mにある港で、湾奥が漁港となっている。港内北側に岸壁がある。港口が北西方へ開き、幅200～500mで約0.7M湾入する。冬季は港口付近で高波が発生し、航行困難になることがある。

**針路法** 港口両側の浅所及び沖防波堤を避け、2～3M沖合から針路130°で温泉津港東防波堤 **灯台先端**

の簡易標識(35° 05.8' N 132° 20.3' E)に向首して進む。

港湾施設

名称	概位	長さ (約m)	水深 (約m)	係船能力 (D/W× 隻)	備考
- 6 m 岸壁	35° 05.7' N 132° 20.4' E	210	3~5.5	3,000×2	東防波堤の南東隣

**錨地** 港内は底質砂で錨かきは大体良いが泊地が狭いため、錨鎖は長く出せない。過去に走錨した例もある。北西風の強吹時は波浪が侵入するので、港内での錨泊は危険である。

**補給** 清水及び燃料油は、少量なら補給できる。

大社港 (35° 24.0' N 132° 39.8' E) (海図W1176<sup>B</sup>) (JP TIA)



(2020年7月撮影)

**港種** 港則法適用港

**概要** 出雲大社で知られる出雲市の北西部にある港で、漁港でもある。

この港は、南西風のときに波浪が低い防波堤を越えて侵入し、係留が困難となる。北東風の強吹時には、しばしば南防波堤の南方に1,000 t級の船舶が避泊するという。船だまりには南側から入港する。

目標

地物名	概位	備考
艫《トモ》島	35° 25.3' N 132° 36.6' E	高さ11mの小島
高見平山	35° 25.3' N 132° 37.8' E	高さ165m
高尾山	35° 25.5' N 132° 39.3' E	高さ358m

**障害物** 沖防波堤と第2沖防波堤との間は、漂砂が堆積しやすいという。

**補給** 清水、燃料油及び氷は少量ならば補給できる。

医療施設

名称	電話番号	備考
島根県立中央病院	0853-22-5111	
島根大学医学部付属病院	0853-23-2111	

**港種** 港則法適用港

**概要** 地蔵崎の西方約4Mにある港で、避難港でもある。北東方へ開き、西方へ約1.3M湾入する。港内は北側を**九島**及びその西方の小さな半島で囲まれているので、北東寄りの風のとき以外は、好避泊地になる。

**潮流** 七類港北方で、上げ（下げ）潮流は東方（南南西方）へ0.4kn（0.2kn）で流れる。

#### 目標

地物名	概位	備考
稲荷山	35° 33.7' N 133° 15.6' E	高さ254m
釣鉾山	35° 34.5' N 133° 15.0' E	円すい形の山、頂上に灯台がある。
九島	35° 34.8' N 133° 14.3' E	高さ65m、東部に灯台がある。
亀ヶ崎	35° 34.7' N 133° 14.6' E	円すい形

#### 針路法

- 1 針路180°で七類港釣鉾山灯台に向首して進む。
- 2 七類港九島灯台の正横で針路225°に変針し、**宇杭島**へ向ける。
- 3 七類港九島灯台の正横にて、七類港**沖**防波堤灯台に向首して、以後適宜港内に進む。

**入港上の注意** 九島北方に長さ約1,000mの定置漁網が設置されているので、入出港する際は注意を要する。

#### 港湾施設

名称	概位	長さ (約m)	水深 (約m)	係船能力 (t×隻)	備考
-5m岸壁	35° 34.3' N 133° 13.9' E	150	4~4.5	1,000×3	
-6.5m岸壁	35° 34.3' N 133° 13.8' E	200	4.5~6	3,000×1	フェリー用
-6m岸壁	35° 34.3' N 133° 13.7' E	125	4~5.5	3,000×1	
-5m岸壁	35° 34.3' N 133° 13.6' E	145	4~4.5	1,000×3	
-5m岸壁	35° 34.3' N 133° 13.5' E	64	3.5		官庁船用

**漁業** 七類港沖防波堤から青木島までの港内南側海域にはワカメ養殖施設が多数設置されている。

#### 海事関係官公署

官公署名	連絡先	官公署名	連絡先
島根県松江県土整備事務所	0852-32-5719		

**錨地** 沖防波堤西側は水深7m前後で、500t級の船舶が錨泊できるが、設置漁具に注意が必要である。

**補給** 各岸壁で清水の補給ができる。

**海上交通** 隠岐諸島の間には、カーフェリー便（2,375t**他**）及びジェットfoil便（173t）がある。

## 浦郷港 (36° 05.2' N 132° 59.8' E) (海図W116) (JP UA0)



(2020年6月撮影)

**港種** 港則法適用港

**概要** 西ノ島中央部にある港で、漁港でもある。水産物の流通拠点、漁船の避難港として、また島前の表玄関として発展している。

港内北東部の美田湾(36° 05.9' N 133° 00.6' E)に地方港湾の美田港がある。湾内の幅は狭いが小型船の好錨地になっている。湾内東側には小型船用の係船施設がある。港奥の船越に幅約12m、長さ約300mの浅い小さな運河(船引運河)があり、北側の港へ通じる。また、浦郷港西方の赤ノ江及び由良湾に浦郷漁港の施設がある。

### 目標

地物名	概位	備考
獅子ヶ鼻	36° 05.0' N 133° 00.4' E	高さ47m
島根鼻	36° 05.0' N 132° 59.5' E	
中央公民館	36° 05.5' N 132° 59.6' E	白色
警察署	36° 05.5' N 132° 59.8' E	4階建、無線塔がある。

### 港湾施設

名称	概位	長さ(約m)	水深(約m)	係船能力(D/W×隻)	備考
本郷岸壁	36° 05.5' N 132° 59.6' E	95	4~6.5	—	突堤東側、前面に険悪物がある。
		72	—	—	
2号・7号岸壁	36° 05.5' N 132° 59.5' E	144	—	—	耐震岸壁
11号岸壁	36° 05.3' N 132° 59.5' E	176	—	—	

島根鼻の北東方約300m及び同650m付近から北東方に延びる浮消波堤(長さ約150m、約200m)には、両端に緑・赤灯、中央に黄灯がある。

**錨地** 小型船の好避泊地であり、かつ大型船の避泊にも適する。港内中央部は水深 28m 前後、底質泥で錨かきは極めて良い。

**錨泊上の注意** 湾内沿岸部一帯には、定置網及び養殖施設があり、荒天時には多数の船舶が錨泊するので、錨地の選定には注意が必要である。

**補給** 清水、燃料油及び水の補給ができる。

### 別府港 (36° 06.4' N 133° 02.8' E) (海図W1298)



(2020年8月撮影)

**概要** 西ノ島、別府湾西奥にある地方港湾で、島前の経済等の中心的役割を果たしている。見付島の北方及び南西方に-6m岸壁などの係船施設がある。

港内の水深は 10m 前後で、東寄りの風のとき以外は好泊地になる。

#### 目標

地物名	概位	備考
見付島	36° 06.4' N 133° 02.5' E	樹木が密生
黒木埼	36° 06.7' N 133° 02.7' E	樹木が密生

#### 港湾施設

名称	概位	長さ (約m)	水深 (約m)	係船能力 (t×隻)	備考
別府1号岸壁	36° 06.5' N 133° 02.5' E	113	—	1,000×1	フェリー用 (内航船)
別府4号岸壁		158	5.5~6.5	4,000×1	フェリー用、 未測箇所あり
別府11号護岸	36° 06.4' N 133° 02.6' E	80	3.5	—	高速船用 (内航船)
別府2号岸壁	36° 06.6' N 133° 02.5' E	140	3.5~4.5	1,000×1	
別府4号護岸		45	—	—	観光船用 (運航停止中)
別府3号岸壁	36° 06.3' N 133° 02.4' E	140	4.5~5	1,000×1	
別府5号岸壁	36° 06.4' N 133° 02.6' E	80	—	4,000×1	ジェットfoil用
大山1号物揚場	36° 05.9' N 133° 02.7' E	50	4.5~5	—	貨物船用

**補給** 清水の補給ができる。

る。

湾口が狭く入港が困難であるが、湾内は錨かきが良い。北方支湾の奥に重栖《オモス》港がある。

**西郷港** (36° 12.1′ N 133° 20.3′ E) (海図W1173、W1190) (JP SAI)



(2020年6月撮影)

**港種** 港則法適用港、重要港湾

**概要** 島後南東岸の湾入部にある港で漁港でもある。この港は島後唯一の天然の良港で、港内は、沖防波堤北側の東防波堤基部と港口東角の**万古《バンコ》山**(36° 11.9′ N 133° 20.4′ E)の岬端とを結んだ線の北側が港湾区域、西側が漁港区域でそれぞれ商港地区、漁港地区と称している。

**北浦**は、四方の風を防ぐ好避泊地である。

隠岐諸島における海上交通の中心地で、本土～隠岐諸島間及び島前～島後間の各連絡船が発着する。

**潮流** 港内の潮流は、微弱である。

**副振動** 同港には30～40分を周期とする海面の昇降があり、その昇降は0.3mに達することがある。

**目標**

地物名	概位	備考
金峯《キンブ》山	36° 12.0′ N 133° 20.8′ E	高さ199m、山頂付近にテレビ塔(高さ216m)がある。
姫島	36° 11.8′ N 133° 20.3′ E	高さ0.8m、灯標がある。
飯ノ山	36° 11.5′ N 133° 19.0′ E	高さ237m、東～南東方からは台形に見える。
愛宕山	36° 11.7′ N 133° 19.8′ E	高さ194mの鋭峰
ホテル	36° 12.2′ N 133° 19.9′ E	白色、9階建、西郷一の高層建築、顕著
<del>無線塔</del>	<del>36° 12.2′ N 133° 19.7′ E</del>	<del>NTTパラボラアンテナ(高さ52m)、顕著</del>
西郷大橋	36° 12.1′ N 133° 19.4′ E	高さ18m、赤色、橋梁灯がある。

**針路法** 西方から入港する場合は、白埼から港口付近の定置網に十分注意し、安全な離隔距離を保ち、**金峯山**(36° 12.0′ N 133° 20.8′ E)を350°に見るようにして進み、**烏貝埼**を正横に見る所で徐々に左転して港口に向かい、次いで針路適宜で進入する。

**架空線** 境水道大橋東側に架空線（高さ 39m）がある。

**航路** 境港防波堤灯台(35° 33.1′ N 133° 16.3′ E)の東北東方約 0.5Mから境水道大橋の東側の間に、法定航路（長さ約 1.7M、幅約 160m、水深 6.2～14m）がある。さらに、同航路から西方の第3区、中浦水道付近まで、水路（水深 7～9m）がある。

#### 針路法

##### 第1区及び第3区へ入港する場合

- 1 美保関灯台(35° 34.0′ N 133° 19.5′ E)の南方 1M付近から、境港第1号及び第2号灯浮標間のほぼ中央を 273° で向首し、法定航路に入る。
- 2 防波堤灯台付近で徐々に左転し、境港指向灯を 255.5° に向首して進む。
- 3 水路中央よりやや北側を進み目的地に進む。

##### 第2区外港昭和南地区へ入港する場合

上記1の針路法で航路内へ入った後徐々に左転し、境港中野東防波堤灯台(35° 31.9′ N 133° 15.0′ E)を 227° に向首して進む。

#### 入港上の注意

- 1 航路入口付近は可航水域が狭く漁船や危険物積載船錨地及び検疫錨地からの入港船など、出入港船舶が集中するので、衝突事故に対して、特に注意すること。
- 2 港内は、潮流の変化が激しく、岸壁係留中の大型船等の影響を受けて微妙に変化する。
- 3 南～西南西の風が強く吹くときは、北方へ圧流されて陸岸に寄せられ、北東風の強く吹くときは、風下に大きく圧流されて、針路保持が困難になることがある。
- 4 第3区の南側港界付近に米子空港で離発着する航空機のために「航空機進入表面区域」が設けられ、船舶のマスト等の安全高さに注意が必要である（海図W1174参照）。
- 5 地蔵崎と美保関漁港の間には定置網が設置されているので、入出港する際は注意を要する。

**水先** 境水先区水先人会に要請する（第1編総記 第6章水先参照）。

**通信** 船舶と港長との間で、無線電話による港務通信ができる。

呼出名称	周波数 (呼出・応答/通信)	運用時間	連絡先
まいづるほあん MAIZURU COAST GUARD RADIO	16/12ch	常時	境海上保安部（港長）

**航泊制限** 引火性危険物積載タンカーの引火による事故を防止するため、一般船舶は、港内に停泊中の同タンカー（タンク船を含む）から 30m以内の海面に立ち入ることが禁止されている。なお、同タンカーは、港内停泊中、夜間でも容易に視認しうる「引火性危険物積載中」の垂れ幕等を掲げている。

#### 港湾施設

名称	概位	長さ (約m)	水深 (約m)	係船能力 (D/W× 隻)	備考
昭和北1号岸壁	35° 33.0′ N 133° 15.8′ E	140	4.5～5.5	700×2	ジブクレーン1基
昭和北2号岸壁		220		700×2	
昭和南1号岸壁	35° 32.3′ N 133° 15.2′ E	270	13	40,000×1	
昭和南2号岸壁		185	10	15,000×1	
昭和南3号岸壁		130	7.5～8	5,000×1	
昭和南4号岸壁		280	13～14	50,000×1	ガントリークレーン2基

医療施設

名称	電話番号	備考
国立病院機構米子医療センター	0859-33-7111	
鳥取大学医学部附属病院	0859-33-1111	

安来港 (35° 26.1' N 133° 15.4' E) (海図W1174分図) (JP YSG)



(2020年6月撮影)

港種 港則法適用港

概要 中海南東部、米子港の西方約2.5Mにある港で、安来臨海工業団地の造成とともに島根県東部における工業港として岸壁等の整備が進められている。

港口から木戸川河口の北方までは、水深約5~7mの水路があり、灯浮標及び浮標で表示されている。

目標

地物名	概位	備考
亀島	35° 26.5' N 133° 15.4' E	灯台がある。
十神山	35° 26.0' N 133° 15.7' E	高さ93m
<del>煙突</del>	<del>35° 25.7' N 133° 15.6' E</del>	<del>5基、高さ41~48m、駅の南側</del>

港湾施設

名称	概位	長さ(約m)	水深(約m)	係船能力(t×隻)	備考
-6m岸壁	35° 26.1' N 133° 15.3' E	105	6	3,000×1	
-5m岸壁		70	5	1,000×1	
-4m物揚場	35° 25.9' N 133° 15.5' E	160	3	500×1	
-4.5m岸壁		80	3~3.5	500×1	上記物揚場の南東隣
-5m岸壁		140	2.5~3.5	1,000×1	上記岸壁の南東隣

上表のほか、亀島西方の工業用地に岸壁がある。

網代港 (35° 34.9' N 134° 17.2' E) (海図W160) (JP AZJ)



(2020年6月撮影)

**港種** 港則法適用港

**概要** 鳥取港の東北東方約6Mにある港で漁港でもある。第1防波堤(南西端に簡易標識がある)基部の北防波堤と導流堤に続く南防波堤(北西端に簡易標識がある)とにより囲まれた船だまりがあり、西南西方に開いている。船だまり内は、中央突堤を境として北側を外港船だまり、南側を内港船だまりと称されている。外港、内港両船だまりは水深4m以下で、主に地元船が利用している。また、蒲生川河口の南側第2防波堤の内側にも、船だまり(水深は約3~7m)がある。

**注意** 西~北西風の強吹時には、港口に波浪が侵入し出入港が困難になる。

**目標**

地物名	概位	備考
漁業協同組合	35° 34.7' N 133° 17.4' E	薄クリーム色塗、2階建

**入港上の注意** 外港船だまり入口は狭く、また北防波堤の南端付近には捨て石があるので注意を要する。

**港湾施設**

名称	概位	長さ(約m)	水深(約m)	係船能力(D/W×隻)	備考
-4.5m岸壁	35° 34.8' N 134° 17.4' E	延長 645	3~6	—	蒲生川河口南側の船だまり内
栈橋		100	4.5	—	

上表のほか、蒲生川河口南側の船だまり内に係船浮標3個がある。

**網代埼~余部埼 (海図W139)**

**概要** この間の約13Mの海岸は、一般に高さ100m以上の高地で、その間に砂浜の湾入が数か所ある。

沿岸はおおむね急深であるが、諸岩が散在する。余部埼を中心とする浜坂港~香住港間は、奇岩、洞穴が各地にあって、両港から遊覧船が出る。

なお、網代港の東方に隣接する田後港、居組漁港、諸寄漁港、浜坂港(35° 38.0' N 134° 26.8' E)(港

### 金ヶ岬～博奕岬〔舞鶴湾〕（海図W1167、W1164）

**概要** 舞鶴湾は金ヶ岬と博奕岬との間に湾入する天然の良湾で、**戸島**（35° 29.8′ N 135° 20.5′ E）で東、西に二分されている。

湾岸は屈曲が多く、山地が海岸に迫り、中央部には島が散在する。

水深はこれらの島及び南岸から北方に突出した陸岸の周辺を除けば、一般に岸近くまで深く、底質はおおむね泥で錨かきが良く、しかも、各方向の風を防ぐため、大小船舶の好泊地になる。

湾内は、舞鶴港の港域内に含まれる。

#### 目標

地物名	概位	備考
博奕《バクチ》岬	35° 33.1′ N 135° 20.6′ E	岬端は赤色の崖、灯台がある。
無線柱	35° 32.1′ N 135° 20.5′ E	高さ216mの山頂付近にある。
五老岳	35° 27.9′ N 135° 20.6′ E	高さ301m、頂上付近に2無線塔及び展望塔（白、薄茶塗）がある。

### 舞鶴港（35° 30.1′ N 135° 20.5′ E）（海図W1167）（JP MAI）

**港種** 特定港、開港、検疫港、出入国港、家畜検疫の港、植物検疫の港、重要港湾

**概要** 若狭湾西部、**金ヶ岬〔金ヶ埼〕**と博奕岬との間に湾入する天然の良港である。**戸島**付近を境にして西側が西港、東側が東港と通称され、西港奥が第1区、東港奥が第2区で、その他の海域が第3区及び法定航路となっている。西港は公共施設が多く、第1区東側に**舞鶴漁港**がある。東港は造船所、フェリーターミナル、専用施設及び海上自衛隊の基地がある。

**気象** 冬季北西季節風は、山に遮られて港内への直接の影響は少ないが、港外では強い。11月～翌年3月は晴れの日が少なく、特に、12月～翌年2月の3か月間は毎月の降水日数が15～18日前後、降水量は120～150mmに達し、快晴は月1日程度である。春になると天気は良くなり、4、5月は1年中最も湿度が低く雨も少ない。9月ごろになると台風による暴風雨があるが、太平洋側に比較して一般に風は弱い。しかし、台風が紀伊半島を北上するときは十分な警戒が必要である。気温は8月が最高で平均26℃前後、1月は最も低く平均3℃前後である。

**潮汐** この港における平均高高潮は0.3m、平均低低潮は0.1m、平均水面は0.19mである。

**副振動** この港には16分、75分、90分などを周期とする顕著な海面の昇降があり、暴風の際にはその昇降が0.9mに達することがある。

**潮流**（第12図舞鶴港潮流図参照）

湾内では、一般に上げ（下げ）潮流は舞鶴港の低潮（高潮）の約2時間後に最強となるが、場所によりかなり異なるようである。流速は全般的に0.1～0.2knで微弱である。

#### 目標

地物名	概位	備考
槇《マキ》山	35° 30.3′ N 135° 18.6′ E	高さ483m、頂上付近に4基の無線中継塔（各銀色）及びレーダドームがある。
コンテナクレーン	35° 27.5′ N 135° 19.3′ E	高さ55m、赤白塗、移動式
港湾合同庁舎	35° 27.1′ N 135° 19.1′ E	白塗、屋上に無線柱（赤白塗、パラボリアンテナ付）がある。

**障害物** 常宮湾に多数の険悪物がある。

**入港上の注意** 港口から港奥までの水深は深く、地形が分かりやすいので、昼夜とも容易に入港できる。しかし、湾口の西側及び東岸には定置網があるので、注意が必要である。浦底湾に入る場合は、湾口の灯浮標 (35° 44.0' N 136° 02.6' E) を完全にかわしてから湾の中央部を通航する。

**航泊制限** 引火性危険物積載タンカーの引火による事故を防止するため、一般船舶は、港内に停泊中の同タンカー (タンク船を含む) から 30m以内の海面に立ち入ることが禁止されている。なお、同タンカーは、港内停泊中、夜間でも容易に視認しうる「引火性危険物積載中」の垂れ幕等を掲げている。

### 港湾施設

名称	概位	長さ (約m)	水深 (約m)	係船能力 (D/W×隻)	備考	
鞍山北岸壁	A	35° 40.5' N 136° 04.5' E	130	7.5~12.5	5,000×1	
	B		240	12~13	30,000×1	
	C	35° 40.7' N 136° 04.3' E	240	12~14	30,000×1	
	D		240	9.5	20,000G/T×1	カーフェリーが発着
鞍山南岸壁	A	35° 40.1' N 136° 03.9' E	280	13.5~14	50,000×1	クレーン1基
	B	35° 40.1' N 136° 04.1' E	180	13.5~14	50,000×1	
金ヶ崎岸壁	C	35° 39.8' N 136° 04.2' E	170	9~9.5	10,000×1	
	D		130	7.5	5,000×1	
桜岸壁	E	35° 39.6' N 136° 04.3' E	100	5~6	2,000 G/T×2	
	F		90			
蓬萊岸壁	G	35° 39.6' N 136° 04.1' E	390	5.5~6.5	6,000 G/T×3	
	H					
	I					
川崎松栄岸壁	A	35° 39.6' N 136° 03.9' E	200	7~7.5	10,000 G/T×1	
	B	35° 39.7' N 136° 03.7' E	370	8.5~9.5	15,000 G/T×2	クレーン1基
	C					

上表のほか、鞍山北岸壁の南側に北陸電力・敦賀セメント共同岸壁 (係船能力 60,000D/W×1) 及び巡視船専用岸壁等がある。

**水先** 水先法という水先区ではないが、水先の要請は敦賀海陸運輸(株) (TEL 0770-22-3111) が連絡取り次ぎを行う。

**最大入港船舶** 2018年4月17日、客船 DIAMOND PRINCESS (115,875t、喫水 8.5m) が鞍山北岸壁に着岸した。

**錨地** 常宮湾は、水深 20m前後、底質泥で錨かきがよく、小型船向きの好錨地である。

浦底湾は、南東風の強吹時を除き、中央部の水深 20m前後、底質泥の所がよく、500 t 級船舶が錨泊できる。

検疫錨地は、常宮湾口にある。危険物積載船が錨泊する時は、検疫錨地及び敦賀港第 2・4 区 (鞍山防波堤先端から 0.6 海里以内及び同先端から真方位 0 度に引いた線以西を除く) で陸岸から安全距離を確保した場所に錨泊しなければならない。

**錨泊上の注意** 湾内東岸及び西岸の 500m 沖合までは、小型定置網及び養殖筏等が多数設置されている。また北寄りの風の強吹時は、常宮湾又は浦底湾に避泊するとよい。

**台風・津波対策** 台風・津波等による海難事故を防止するため、敦賀港事故防止連絡協議会 台風・津波等対策委員会が設置されており、在港船舶などに対し、情報の伝達及び警戒体制・避難・入港制限の勧告・解除等の災害防止措置を指導している (問合せ先: 敦賀海上保安部)。

## 目標

地物名	概位	備考
雄島	36° 15.0' N 136° 07.1' E	高さ42m、灯台がある。
東尋坊タワー	36° 14.2' N 136° 07.6' E	高さ100m、白色、顕著
煙突	36° 12.5' N 136° 07.9' E	高さ206m、白色、火力発電所構内

**障害物** 福井北防波堤の南方約390m (36° 11.8' N 136° 07.2' E) の海底に陰悪物がある。

**入港上の注意** 三国区に入港する場合は、北西風の強吹時は、九頭竜川河口に三角波が立ち保針に困難をまねくので、入港船は約0.5M沖から針路を設定しておく必要がある。九頭竜川河口及び付近の水深は変化しやすく、三国防波堤南方から南東方の水深は約0.5～2.5m減少しているため、できる限り、九頭竜川の中心より北側を航行したほうがよい。出水時には流れが強く最大7knに達し、砂泥の堆積、漂砂などのため水路の状況が非常に変化する。

また、福井区に入港する場合も、北防波堤入口付近の水深は九頭竜川からの土砂流入により変化しやすく、浅所が多数報告されているので、水路通報、港湾管理者等からの情報を注意すること。また、20t以上の船舶については運航調整が行われている。

西方から入港してくる場合は、舞鶴港沖で「まいづるほあん」をVHF16chで呼び出して、福井港の気象状況を照会し、入港不可能な場合は、若狭湾西部の宮津湾に避泊するとよい(舞鶴港の通信の項参照)。

**水先** 水先法という水先区ではないが、水先の要請は福井埠頭(株)(TEL 0776-82-5330)が連絡取次ぎを行う。

**航泊制限** 船舶は、港内に停泊中の引火性危険物積載船舶から30m以内の海面に立ち入る事が禁止されている。なお、同タンカーは、港内停泊中、夜間においても容易に視認しうる「引火性危険物積載中」の垂れ幕等を掲げている。

## 港湾施設

名称	概位	長さ(約m)	水深(約m)	係船能力(D/W×隻)	備考	
公共ドルフィン	36° 12.0' N 136° 07.4' E	188	7.5	6,000×1		
北	1～3号岸壁	36° 12.0' N 136° 07.9' E	555	8.5～9.5	15,000×3	
	4～8号岸壁		650	4.5～7	5,000×5	
ふ	10号岸壁	36° 12.3' N 136° 07.9' E	130	2～3.5	5,000×1	
頭	－5.5m岸壁	36° 12.1' N 136° 07.7' E	180	4.5	2,000×2	
	耐震岸壁I		100	1.5～4.5	2,000×1	

(注意) 岸壁前面の水深は九頭竜川からの土砂流入により変化しやすいので、最新の海図を使用すると共に、水路通報、港湾管理者等からの情報に注意すること。

**最大入港船舶** 2013年5月11日、客船ぱしふいっくびいなす(26,594t、喫水6.5m)が北ふ頭1号岸壁に着岸した。

**シーバース** 福井南防波堤灯台の南西方約2.2Mに、福井石油備蓄シーバース(36° 10.8' N 136° 04.8' E)(300,000D/W×1基)がある。

**錨地** 三国区の九頭竜川河口のケカチ岩(36° 13.2' N 136° 08.3' E)南東側から上流約450mに至る間は、水深4～6mで、500t前後の船舶が錨泊できる。

**錨泊上の注意** 九頭竜川の川底は、岩盤の上に厚さ約1mの砂が堆積したもので、錨かきはあまり良くない。出水時には走錨のおそれもあるという。三国防波堤と片苔《カツ》埼の間は、水深4m以下で、底質は砂又は岩で錨かきは悪く、東寄りの風のとき以外は錨泊に適さない。

金 沢 港 (36° 38.6′ N 136° 36.4′ E) (海図W1193) (JP KNZ)



(2020年8月撮影)

**港種** 特定港、開港、検疫港、出入国港、家畜検疫の港、植物検疫の港、重要港湾

**概要** 福井港の北東方約35Mにある港である。この港は、金沢市の玄関口として造成された掘込式の港を主体として、港湾整備の進行に伴って逐次大型船の入港が増加している。また、大浜ふ頭は、多目的国際ターミナル（-13m岸壁）として港湾整備を進めている。

**気象** 年間を通じて東北東風が最も多く、北北西風、南南東風がこれに次いでいるが、風速10m/s以上の強風は、西寄りの風が圧倒的に多い。6、7月に濃霧の発生が多い。

**潮流** 石油岸壁の前面付近では上げ潮流は微弱であるが、下げ潮流は北西方へ流れ、その速度は0.5kn以下であるという。

**目標**

地物名	概位	備考
無線塔	36° 35.3′ N 136° 36.4′ E	2基、赤白塗、高さ約160m、約162m

**入港上の注意** 入港船舶は、北西風の強吹時には埋立地からの返し波があるから、西防波堤に接航して進入するとよい。岸壁に至る水路は、漂砂の影響により水深が変化することがあるので、注意を要する。

5～9月頃遊漁船などが稼動し、特に、夜間は西防波堤先端付近に出漁する遊漁船等に注意する必要がある。また、4月頃霧のため、入港が困難になることがある。

**水先** 水先法という水先区ではないが、七尾水先区水先人会が要請に応じる。(第1編総記 第6章水先参照)

**航行制限** 一般船舶は、港内に引火性危険物積載タンカー（タンク船を含む）が停泊している間、同タンカーから30m以内の水面に立ち入ってはならない。なお、同タンカーは、「引火性危険物積載中」と表示された垂れ幕等を掲げている。

**港湾施設**

名称	概位	長さ(約m)	水深(約m)	係船能力(D/W×隻)	備考	
大浜ふ頭	36° 37.6′ N 136° 36.4′ E	400	12～13	30,000×1	多目的国際ターミナル	
石油岸壁	36° 37.1′ N 136° 36.6′ E	600	5～7	5,000×6		
五郎島ふ頭	36° 36.9′ N 136° 37.0′ E	240	2.5～6	10,000×1		
御供田ふ頭	36° 36.6′ N 136° 37.3′ E	540	7～10.5	12,000×3	ガントリークレーン(2基)	
戸水ふ頭	36° 36.5′ N 136° 37.1′ E	370	7.5～8.5	12,000×2		
無量寺ふ頭	36° 36.5′ N 136° 36.8′ E	1号	70	2.5～3.5	2,000×1	
		2,3号	320	4～10	100,000(t)×1	金沢港クルーズターミナル
無量寺突堤	36° 36.6′ N 136° 36.6′ E	270	2.5～5.5	2,000×3		
大野岸壁	36° 36.8′ N 136° 36.5′ E	180	3.5～4.5	1,000×3		

**最大入港船舶** 2023年5月11日、客船 MSC ベリッシマ (171,598 t、喫水 8.7m) が大浜ふ頭に着岸した。

**錨地** 旧金石港 (36° 36.2' N 136° 35.4' E) の北から北西方の沖合 0.7~1Mの水深 11~16m付近は底質細砂で、かつ、遠浅であり、はえ縄、刺網等の漁具が多数あるので、錨泊には注意が必要である。検査錨地は大野灯台の北西方約 1.4Mにある。

**錨泊上の注意** 冬季北西風の強吹時は、走錨の危険があるので錨地には向かない。

なお、岸壁係留中の船舶は、北西風の強吹時でも係留に支障はない。

**台風・津波等対策** 台風・津波等による海難事故を防止するため、金沢港台風・津波等対策協議会が設置されており、在港船舶などに対し、情報の伝達を実施するとともに、金沢港長から港則法に基づく警戒勧告、避難勧告の発出、解除を行っている。(問合せ先：金沢海上保安部)

**海事関係官公署**

官公署名	連絡先	官公署名	連絡先
金沢海上保安部 (港長)	076-267-0511	名古屋植物防疫所 伏木富山支所小松空港出張所	0761-24-1406
大阪税関金沢税関支署	076-268-9181	名古屋出入国在留管理局 金沢出張所	076-222-2450
新潟検疫所金沢・七尾出張所	0761-21-3767 (小松空港出張所へ連絡)	石川県金沢港湾事務所	076-268-1201
動物検疫所 中部空港支所小松出張所	0761-24-1407 (小松空港内)		

**通船** 通船がある。

**引船** 引船がある。

**補給** 清水が補給できる。給油船がある。

**修理** 小さな造船所があり、100 t 以下の船舶の修理ができる。

**廃油処理施設**

事業者名	申込先	利用時間	処理する廃油の種類	
			廃重質油	廃軽質油
(株)ダイセキ	北陸事業所 076-275-6585	0900 ~ 1600	水バラスト、スロップオイル、コレクトオイル、タンク洗浄水、ビルジ、スラッジ、その他	水バラスト、タンク洗浄水、スロップオイル、スラッジ、その他

**医療施設**

名称	電話番号	備考
石川県立中央病院	076-237-8211	
済生会金沢病院	076-266-1060	

**滝 崎 ~ 猿 山 岬 (海図W1161)**

**概要** 滝崎~猿山岬間の約 25Mは、能登半島の西岸で、ほぼ中央に**海士崎**がある。

海士崎の南に**福浦港** (37° 05.1' N 136° 43.3' E) (港則法適用港) (JP FRJ)、**富来漁港**などの諸港がある。

がある。伏木指向灯（白光、227.9° を中心とする幅5°）は可航水路を示している。

**架橋** 小矢部川河口付近に伏木万葉大橋（36° 47.3′ N 132° 03.5′ E、高さ約9m）がある。

**入港上の注意** 伏木航路両側に大型定置網が多数設置されており、大型船が航行できる場所が限られている。可航幅を示すための指向灯が設置されているので、この範囲から逸脱しないよう注意が必要である。

また、小矢部川の東側にある庄川を小矢部川と誤認しないようにすること。小矢部川上流からの流砂により、水深が減少する。

### 港湾施設

名称	概位	長さ (約m)	水深 (約m)	係船能力 (D/W×隻)	備考
左岸1～2号岸壁	36° 47.6′ N 137° 03.8′ E	310	3～5.5	10,000×2	
左岸3～4号岸壁	36° 47.5′ N 137° 03.6′ E	370	2.5～4.5	15,000×2	
左岸5号岸壁	36° 47.4′ N 137° 03.5′ E	90	2	1,000×1	
右岸1～2号岸壁	36° 47.5′ N 137° 04.0′ E	440	3～5	5,000×4	
右岸3～4号岸壁	36° 47.5′ N 137° 03.8′ E	370	3～4.5	15,000×2	クレーン1基
右岸5号岸壁	36° 47.4′ N 137° 03.7′ E	130	2.5	5,000×1	
万葉1号岸壁	37° 48.1′ N 137° 04.0′ E	130	6～7.5	5,000×1	
万葉2号岸壁		190	9.5～10	15,000×1	
万葉3号岸壁	37° 48.2′ N 137° 03.9′ E	280	11.5	30,000×1	ガントリークレーン1基。 耐震岸壁

**最大入港船舶** 2023年7月6日、客船 MSC ベリッシマ（171,598 t、喫水 8.7m）が万葉3号岸壁に着岸した。

### 海事関係官公署

官公署名	連絡先	官公署名	連絡先
伏木海上保安部（港長）	0766-44-0196	新潟検疫所伏木富山出張所 （富山空港出張所へ連絡）	076-428-4160
大阪税関伏木税関支署	0766-44-6173	名古屋植物防疫所伏木富山支所	0766-44-0954
北陸信越運輸局富山運輸支局	0766-44-1367	富山県伏木港事務所	0766-44-0277

**通船** 通船がある。

**補給** 清水の補給ができる。給水船及び給油船がある。

**修理** 小造船所がある。

### 廃油処理施設

事業者名	申込先	利用時間	処理する廃油の種類	
			廃重質油	廃軽質油
㈱ダイセキ	北陸事業所 076-275-6585	0900 ～ 1600	水バラスト、スロップオイル、コレクトオイル、タンク洗浄水、ビルジ、スラッジ、その他	水バラスト、タンク洗浄水、スロップオイル、スラッジ、その他

### 医療施設

名称	電話番号	備考
高岡市民病院	0766-23-0204	
高岡ふしき病院	0766-44-1181	

## 港湾施設

名称		概位	長さ (約m)	水深 (約m)	係船能力 (D/W×隻)	備考
公共 ふ 頭	1～2号岸壁	36° 46.2' N 137° 06.3' E	560	9.5～14	55,000×2	
	3～4号岸壁		275	10	15,000×2	
	5～6号岸壁		260	7.5	5,000×2	
	7～8号岸壁		120	4	700×2	
北1号岸壁		36° 46.4' N 137° 06.3' E	280	12～13	30,000×1	ガントリークレーン 耐震岸壁
北2号岸壁		36° 46.4' N 137° 06.1' E	185	8.5～10	15,000×1	
北3号岸壁		36° 46.4' N 137° 06.0' E	60	5～5.5	700×1	
北4号岸壁		36° 46.4' N 137° 06.5' E	128	12	30,000×1	ガントリークレーン
南水路栈橋		36° 46.0' N 137° 06.7' E	36	6	3,000×1	
東1～2号岸壁		36° 45.4' N 137° 07.7' E	370	6～9.5	15,000×2	
海王岸壁		36° 46.7' N 137° 06.6' E	220	7	15,000G/T×1	

**最大入港船舶** 2018年3月17日、LNG船SERI AMANAH (95,729 t、喫水12.43m)が北陸電力富山新港火力発電所LNG受入栈橋に着岸した。

**停泊地** 新湊航路東側に新湊沖船舶停泊地東A～C (36° 47.3' N 137° 08.7' E) 及び新湊沖船舶停泊地西A～C (36° 47.4' N 137° 08.3' E) の6灯浮標で囲まれる停泊地がある。日没から日出までの間、停泊禁止である。停泊地東西の定置網の設置に注意すること。

## 海事関係官公署

官公署名	連絡先
富山県富山新港管理局	0766-84-8292

## 医療施設

名称	電話番号	備考
射水市民病院	0766-82-8100	

**海上交通** 新湊大橋南側の水路を横断する渡船(通称 越ノ潟フェリー) (44 t、46 t) が頻繁に運行されている。

富山区及び付近 (海図W1162<sup>A</sup>)

(2020年9月撮影)

**直江津港** (37° 12.6' N 138° 15.8' E) (海図W1182) (JP NAO)



(2016年9月撮影)

**港種** 特定港、開港、検疫港、出入国港、家畜検疫の港、植物検疫の港、重要港湾

**概要** 鳥ヶ首岬の東方約 7.5Mの関川河口付近にある港で、臨海工業地帯を成す。港区東側埋立地に火力発電所及びLNG受入基地がある。

**海難** 北西風の強吹時、沖合の錨泊船が走錨して、西防波堤に乗り揚げたことがある。

**目標**

地物名	概位	備考
煙突	37° 12.4' N 138° 16.8' E	高さ156m (銀色)
タンク群	37° 11.6' N 138° 15.7' E	薄緑色、多数あり
風力タービン	37° 11.2' N 138° 15.3' E	高さ57m、白色

**障害物** 防砂堤北端の南方約 300m(37° 11.8' N 138° 16.0' E)にコンクリートブロック (水深 5m) が沈んでいる。

**水先** 水先法という水先区ではないが、新潟水先区水先人会が要請に応じる。(第 1 編総記 第 6 章水先参照)

**航行制限** 引火性危険物積載タンカーの引火による事故を防止するため、一般船舶は、港内に停泊中の同タンカー (タンク船を含む) から 30m以内の海面に立ち入ることが禁止されている。なお、同タンカーは、港内停泊中、夜間においても容易に視認しうる「引火性危険物積載中」の垂れ幕等を掲げている。

**錨地** 一般に大型船は、防波堤外に錨泊する。関川河口の北西方約 2,300mの検疫錨地付近 (水深 20m前後) は、底質砂泥で錨かきが良い。

**港湾施設**

名称	概位	長さ (約m)	水深 (約m)	係船能力 (D/W×隻)	備考
東ふ頭	危険物1号岸壁	37° 11.7' N 138° 15.5' E	90	6~10	5,000×1
	危険物2号岸壁	37° 11.7' N 138° 15.6' E	130	5.5	5,000×1
	危険物3号岸壁	37° 11.8' N 138° 15.8' E	130	5.5~7.5	5,000×1

東ふ頭	1号岸壁	37° 11.4' N 138° 15.4' E	130	8.5	5,000×1	
	2号岸壁		240	8~10.5	15,000×1	
	3号岸壁	37° 11.5' N 138° 15.4' E	185	8~10	15,000×1	
	4号岸壁	37° 11.6' N 138° 15.5' E	170	10	12,000×1	ガントリークレーン、耐震岸壁
	5号岸壁	37° 11.7' N 138° 15.7' E	130	6	5,000×1	危険物用
	漁港区岸壁	37° 11.8' N 138° 16.0' E	385	4.5~7	256t×1	
中央ふ頭	1号岸壁	37° 11.1' N 138° 15.1' E	130	4~5	5,000×1	
	2号岸壁	37° 11.2' N 138° 15.0' E	185	8~8.5	15,000×1	
	鉱産品岸壁	37° 11.4' N 138° 15.2' E	270	11.5~13	50,000×1	
	木材岸壁	37° 11.3' N 138° 15.3' E	185	8~10	15,000×1	
内貿ふ頭 北岸壁	2号	37° 11.1' N 138° 15.2' E	60	3.5~4.5	700×1	
	3号	37° 11.1' N 138° 15.3' E	120	2.5~4	700×1	
内貿ふ頭 南岸壁	1号	37° 11.0' N 138° 15.1' E	200	7.5~9.5	6,000t×1	佐渡汽船用、耐震岸壁
	3号	37° 11.0' N 138° 15.2' E	75	4.5	700×1	
	4号	37° 11.0' N 138° 15.2' E	120	4~4.5	700×1	
	5号	37° 11.0' N 138° 15.3' E	60	3	700×1	
西ふ頭	1号	37° 11.0' N 138° 14.9' E	174	7~8.5	15,000×1	アンローダ1基
	2号	37° 11.1' N 138° 14.9' E	185	7.5~8.5	15,000×1	

**最大入港船舶** 2018年10月31日、LNG船 PACIFIC BREEZE (144,978 t、喫水 12.2m) が JERA 上越火力発電所 LNG 受入栈橋に着岸した。

**台風・津波対策** 台風・津波等による海難事故を防止するため、直江津港船舶津波・台風等対策協議会が設置されており、在港船舶などに対し、情報の伝達及び警戒体制・避難・入港制限の勧告・解除等の災害防止措置を指導している（問合せ先：上越海上保安署）。

#### 海事関係官公署

官公署名	連絡先	官公署名	連絡先
上越海上保安署（港長）	025-543-4118	新潟検疫所直江津出張所	新潟空港出張所 025-275-4615 へ連絡
東京税関新潟税関支署直江津出張所	025-543-2388		
横浜植物防疫所新潟支所直江津出張所	025-543-0648	新潟県上越地域振興局 直江津港湾事務所	025-543-4167

**引船** 引船がある。

**補給** 清水及び燃料油の補給ができる。

**修理** 修理所はあるが、上架施設はない。

#### 医療施設

名称	電話番号	備考
上越総合病院	025-524-3000	
新潟労災病院	025-543-3123	

**海上交通** 小木港 {佐渡島} との間にカーフェリー (2,486 t) 便がある。(冬季運休)

## 寺泊港 (37° 39.1' N 138° 45.5' E) (海図W1470) (JP TRD)



(2020年4月撮影)

**港種** 港則法適用港

**概要** 柏崎港の北東方約19Mにある港で、佐渡島への最短コースとなる観光拠点港として発展が期待されている。港口付近は、大河津分水路からの砂の流入があり、水深が変化しやすいので注意する。

**港湾施設**

名称	概位	長さ (約m)	水深 (約m)	係船能力 (D/W×隻)	備考
中央ふ頭1号岸壁	37° 38.5' N 138° 45.9' E	105	3.5~4.5	1,000×1	
中央ふ頭2号岸壁	37° 38.5' N 138° 45.8' E	90	4	2,000×1	高速船用
西ふ頭岸壁	37° 38.4' N 138° 45.7' E	100	3.5~4.5	2,000×1	

**避泊上の注意** 北西寄りの風有的时候には、波浪が侵入して入港困難となるので、注意を要する。

**補給** 清水の補給ができる。

新潟港 (37° 59.0' N 139° 06.6' E) (海図W1155<sup>A</sup>, W1155<sup>B</sup>, W1197) (JP KIJ)

**港種** 特定港、開港、検疫港、出入国港、家畜検疫の港、植物検疫の港、国際拠点港湾

**概要** 新潟市にある特定港かつ国際拠点港湾であり、港は西区、東区及び外港に分かれ、一般に西区を西港、東区を東港という。西区は信濃川の河口部に位置し、主にカーフェリー・旅客船及びジェットfoilが発着し、新潟の玄関口として利用されているが、土砂の堆積により水深が変化するため、常に掘下げ作業が行われている。東区は信濃川河口の東方約8Mに造成された掘込式港湾で、日本海沿岸最大のエネルギー供給基地として、年間800万トンのLNGを扱っているほか、耐震岸壁を備えたコンテナ基地としても整備され、国際流通港湾としての役割が増大している。

**気象** 冬季は北西の季節風が卓越し、3~6日の周期で強まる傾向がある。4~10月は南風が多く11月からしだいに西寄りの風が変わる。

また、晩冬から早春にかけては、東シナ海に発生して日本海で発達する低気圧の影響で、南西から西に回

る突風が吹くことがある。

冬季の荒天時には、港口付近で波高が6~7mに達することもある。

**潮流** 西区の潮流は北東、南西方へ流れ、流速は0.5kn以下である。しかし、信濃川河口付近の流れは強く、平均流速は1kn前後で、東防波堤の先端から東方へ向かう流れがある。

**潮汐** この港の西区における平均高高潮は0.3m、平均低低潮は0.1m、平均水面は0.17mである。

**海難** 西区入口付近で、乗り揚げの事例がある。最近では、1999年1月に貨物船が走錨し、第1西防波堤に乗り揚げ沈没した事例がある。

**障害物** 阿賀野川河口の北北西方約5.4Mに水中航路障害物がある。

**入港上の注意** 冬季に入港する場合、北西の強風により圧流されるおそれがあるので注意を要する。

### 行先信号

	信号	目的地に関する記号	信文
進路表示信号（平成7年海上保安庁告示第35号）及び船舶自動識別装置の目的地に関する記号（平成22年海上保安庁告示第94号）	2代・W	W	西区信濃川の西側の係留施設に向かって航行する。
	2代・W・B	WB	西区信濃川の東側の万代島ふ頭の係留施設に向かって航行する。
	2代・W・D	WD	西区信濃川の東側の導流堤の東側の係留施設に向かって航行する。
	2代・W・T	WT	西区信濃川東岸の通船川沿いの係留施設又は山の下ふ頭北側岸壁に向かって航行する。
	2代・W・R	WR	西区臨港ふ頭の係留施設に向かって航行する。
	2代・E	E	東区東側の係留施設に向かって航行する。
	2代・E・W	EW	東区西側の係留施設に向かって航行する。

**通信** 船舶と港長との間で、無線電話による通信ができる。

呼出名称	周波数 (呼出・応答/通信)	運用時間	連絡先
にいがたほあん NIIGATA COAST GUARD RADIO	16/12ch	常時	新潟海上保安部（港長）

**水先** 新潟水先区水先人会に要請する。（第1編総記 第6章水先参照）

水先人会は、入港待機で錨泊する際は第2西防波堤の延長線上の西側で水深20m以深の所に錨泊するよう要望している。

**航泊制限** 一般船舶は、港内に引火性危険物積載タンカー（タンク船を含む）が停泊している間、同タンカーから30m以内の水面に立ち入ってはならない。なお、同タンカーは「引火性危険物積載中」と表示された垂れ幕等を掲げている。

**錨地** 危険物積載船が錨泊するときは、外港に錨泊しなければならない。なお、外港において沖荷役は、行われていない。検疫錨地は、新潟港西区西突堤灯台の北西方約0.8Mにある。

新潟港長は、外港に検疫待ち等のため錨泊し、待機する各種船舶及び油送船（危険物及び重油積載船舶）に対し、下記事項について十分留意し、万全を期すよう指導している。

- 1 新潟港西区沖合の外港に錨泊する場合は、なるべく陸岸及び防波堤との間の距離を十分に確保し、なおかつ自船の能力に応じた水深を考慮のうえ、新潟港西区西突堤灯台(37° 57.5' N 139° 04.1' E)から北北西の線以西の港域内、または、その付近を利用すること。なお、西区第2西防波堤東側の信濃川の流水域や新潟港東海岸地区沖合は避けること。

## 目標

地物名	概位	備考
煙突	37° 56.8' N 139° 04.9' E	高さ各122m、赤白塗、火力発電所構内に21基
山の下みなとタワー	37° 56.7' N 139° 04.3' E	高さ約40m、新潟みなとトンネルの立坑、頂部円筒形
入船みなとタワー	37° 56.6' N 139° 03.7' E	高さ約40m、新潟みなとトンネルの立坑、頂部円筒形
無線塔	37° 55.3' N 139° 03.1' E	高さ93m、赤白塗、パラボラアンテナ付
朱鷺メッセ	37° 55.5' N 139° 03.6' E	高さ約140m、灰色、31階建、頂部付近に赤灯点灯
著屋	37° 55.1' N 139° 03.4' E	高さ約105m、ガラス張り20階建（新潟日報メディアシップ）、頂部に赤灯点灯
著屋	37° 55.4' N 139° 02.6' E	高さ125m、灰色、20階建（NEXT21）、上部尖塔は夜間照射され、頂部に赤灯が点滅

**針路法** 冬季、西区に入港する場合、第2西防波堤の北北東方から進入しようとする、北西の強風と川の流れに圧流されて陸岸に接近するおそれがあるから、できるだけ第2西防波堤の北北西方から接近する。

港口に接近したならば、西突堤基部南側にある新潟信号所(37° 56.7' N 139° 03.8' E)と無線塔(目標の項参照)とを一線に見て進入し、新潟港西区西突堤灯台(37° 57.5' N 139° 04.1' E)付近から適宜水路の中央を通して入港する。

**信号** 新潟信号所(37° 56.7' N 139° 03.8' E)で、航行管制信号を行っている。

**航行管制** (港則法第36条の3第1項、同施行規則第20条の2) 西区へ出入港する一定の船舶の行き会いを防止するため航行管制が行われ、次表のとおり新潟信号所で行う信号に従って航行しなければならない。

名称	信号の方法		信号の意味
	昼間	夜間	
入航信号	毎2秒に白色光1閃又は黒色の上向き円すい形形象物1個	毎2秒に白色光1閃	入航船は入航可 500t(油送船は300t)以上の出航船は運航停止 500t(油送船は300t)未満の出航船は出航可
出航信号	毎2秒に赤色光1閃又は黒色の方形形象物1個	毎2秒に赤色光1閃	出航船は出航可 500t(油送船は300t)以上の入航船は水路外で待機 500t(油送船は300t)未満の入航船は入航可
自由信号	毎3秒に順次赤色光1閃と白色光1閃又は黒色の鼓形形象物1個	毎3秒に順次赤色光1閃と白色光1閃	500t(油送船は300t)以上の入航船は水路外で待機 500t(油送船は300t)以上の出航船は運航停止 500t(油送船は300t)未満の出入航船は入出航可
禁止信号	毎6秒に順次赤色光3閃と白色光3閃又は縦に黒色の鼓形形象物1個と赤色の方旗1旗	毎6秒に順次赤色光3閃と白色光3閃	港長の指示を受けた船舶以外の船舶は入出航禁止

港湾施設

名称	概位	長さ (約m)	水深 (約m)	係船能力 (D/W×隻)	備考	
山の下ふ頭	北側岸壁	37° 56.5' N 139° 04.0' E	330	6.5~8.5	10,000×2	南・北両側は浅い。
	南側岸壁	37° 56.3' N 139° 04.1' E	260	6.5~8.5	5,000×2	カーフェリー用 耐震岸壁(港口側 130m)
通船川右岸岸壁		37° 56.2' N 139° 04.1' E	90	3~4	2,000×1	
通船川左岸岸壁		37° 56.2' N 139° 04.1' E	95	3	700×1	
北ふ頭	1号岸壁	37° 56.1' N 139° 04.0' E	330	8.5~9	10,000×2	
	2号岸壁	37° 56.0' N 139° 04.0' E	97	7	5,000×1	
東ふ頭岸壁		37° 55.9' N 139° 04.0' E	231	7	5,000×2	
中央ふ頭	北側岸壁	37° 55.9' N 139° 03.9' E	294	8.5~9	10,000×2	
	先端岸壁	37° 56.0' N 139° 03.9' E	137	7~7.5	5,000×1	カーフェリー用
	南側岸壁	37° 55.8' N 139° 03.9' E	307	5.5~7	5,000×2	
南ふ頭岸壁		37° 55.7' N 139° 03.9' E	288	5.5~7	5,000×2	
万代島ふ頭	ふ頭岸壁	37° 55.6' N 139° 03.7' E	391	3~6	3,000×3	
	石油栈橋	37° 55.7' N 139° 03.8' E	30	—	2,000×1	供用停止中
	先端岸壁	37° 55.8' N 139° 03.8' E	90	4.5~5	300×2	ジェットオイル用
	万代島信濃川右岸 第1バース岸壁	37° 55.8' N 139° 03.7' E	193	4.5~6.5	6,000×1	カーフェリー用
	万代島信濃川右岸 第2バース岸壁	37° 55.7' N 139° 03.6' E	193	4~5	6,000×1	カーフェリー用
	万代島信濃川右岸 第3バース岸壁	37° 55.6' N 139° 03.6' E	136	3~5	2,000×1	南・北両側は浅い。

上記のほか、臨港ふ頭がある。

海事関係官公署

官公署名	連絡先	官公署名	連絡先
第九管区海上保安本部	025-285-0118	東京税関新潟税関支署	025-244-9312
新潟海上保安部(港長)	025-244-1008	新潟検疫所(本所)	025-241-2323
北陸信越運輸局(本局)	025-285-9156	横浜植物防疫所新潟支所	025-244-4401
東京出入国在留管理局新潟出張所 (新潟空港ターミナルビル内)	025-275-4735	新潟県新潟地域振興局 新潟港湾事務所	025-247-9131

補給 給水施設用のほしほ及び給油船がある。

修理

造船所名	電話番号	備考
新潟造船(株)新潟工場	025-222-6121	

## 廃油処理施設

事業者名	申込先	利用時間	処理する廃油の種類	
			廃重質油	廃軽質油
<del>成沢製油(株)</del>	<del>025-275-1311</del>	<del>0830~1700</del>	<del>水バラスト、タンク洗浄水、ビルジ</del>	<del>水バラスト、タンク洗浄水、スラッジ</del>
青木環境事業(株)	025-255-3360	0800~1700	<del>水バラスト、スロップオイル、コレクトオイル、タンク洗浄水、ビルジ、スラッジ、その他事前確認のこと</del>	<del>水バラスト、タンク洗浄水、スロップオイル、スラッジ、その他</del>

## 医療施設

名称	電話番号	備考
新潟臨港病院	025-274-5331	
新潟万代病院	025-244-4700	

**海上交通** 両津港 {佐渡島} との間にカーフェリー便 (5,862 t 等) 及びジェットfoil便がある。敦賀港、秋田船川港 {秋田区}、苫小牧港及び小樽港との間には、カーフェリー便 (18,229 t 等) がある。

東区及び付近 (海図W1155<sup>B</sup>)

(2020年4月撮影)

## 目標

地物名	概位	備考
煙突	37° 59.9' N 139° 14.5' E	火力発電所構内に4基、高さ165m、210m、209m、208m、白色閃光灯付
タンク群	38° 00.0' N 139° 14.1' E	石油備蓄用、銀色、多数あり、顕著

**海底管** 東区中央ふ頭東岸壁からMGCターミナル新潟東港岸壁に至る間にガス、油の海底管(37° 59.4' N 139° 13.4' E)がある。また、岩船港沖石油掘削塔(38° 08.0' N 139° 20.3' E)(白灯がある)から西防波堤基部西側に至る間に海底管がある。

信号 福島潟放水路及び新発田川放水路からの洪水放水情報を示す私設信号灯が南ふ頭木材 2 号岸壁西端 (37° 58.3' N 139° 14.1' E) 及び西 2 号栈橋北西 (37° 59.5' N 139° 12.9' E) に設置されている。

信 号	信 文	備 考
ㄐ	放 流 予 告	福島潟放水路及び新発田川放水路からの放流予告と放水口の流速を表示
FH	福島潟放水路	
SH	新発田川放水路	
0.0	流速 0.0kn	
0.5	流速 0.5kn	
1.0	流速 1.0kn	
↑	1.0kn 以上	

港湾施設

名 称	概 位	長 さ (約m)	水 深 (約m)	係船能力 (D/W×隻)	備 考	
東 1 号栈橋	37° 59.6' N 139° 13.7' E	84	13.5	50,000×1	ドルフィン	
東 3 号栈橋	38° 00.0' N 139° 13.6' E	394	12~13.5	102,000×1	ドルフィン、北西端に灯がある。	
中央ふ頭東 1 号岸壁	37° 59.4' N 139° 13.6' E	260	12~13	40,000×1		
中央ふ頭東 2 号岸壁	37° 59.2' N 139° 13.7' E	260	12.5~13	40,000×1		
東 ふ 頭	1 号岸壁	37° 58.6' N 139° 14.1' E	280	14	50,000×1	クレーン
南 ふ 頭	木材 1 号岸壁	37° 58.3' N 139° 14.2' E	185	9.5~10	18,000×1	東側に木材整理場がある。
	木材 2 号岸壁	37° 58.3' N 139° 14.1' E	185	9.5~10	18,000×1	
西 ふ 頭	1 号岸壁	37° 58.1' N 139° 13.9' E	130	6~7	5,000×1	耐震岸壁、 コンテナクレーン
	2 号岸壁	37° 58.2' N 139° 13.8' E	185	9~9.5	15,000×1	コンテナクレーン
	3 号岸壁	37° 58.2' N 139° 13.6' E	350	11.5~12	30,000×1	コンテナクレーン (2 基)
	4 号岸壁	37° 58.1' N 139° 13.4' E	250	11.5~12	30,000×1	耐震岸壁、 コンテナクレーン
中央ふ頭西岸壁	37° 59.0' N 139° 13.5' E	232	12~12.5	40,000×1		
西 3 号栈橋	37° 59.5' N 139° 13.1' E	118	7.5	5,000×2	各 A・B 両面がある。	
西 2 号栈橋	37° 59.5' N 139° 13.0' E	135	7~7.5	5,000×2		
西 1 号栈橋	37° 59.6' N 139° 13.0' E	135	6.5~7.5	5,000×2		

また、港奥の防波堤内に船だまり（水深 4m 前後）がある。

補給 清水及び燃料油の補給ができる。

海事関係官公署

官 公 署 名	連 絡 先
新潟県新潟地域振興局新潟港湾事務所東港分所	025-256-2503
東京税関新潟税関支署東港出張所	025-256-3458

## 港湾施設

名称	概位	長さ (約 m)	水深 (約m)	係船能力 (D/W×隻)	備考
北 ふ 頭	1号岸壁	37° 48.9' N 138° 16.9' E	170	5.5~6	—
	2号岸壁	37° 48.9' N 138° 17.1' E	210	6.5~7	6,000t×1
	3号岸壁	37° 48.9' N 138° 17.2' E	100	5.5	2,000×1
中 央 ふ 頭	2号岸壁	37° 48.9' N 138° 16.9' E	137	4	1,000×1
	3号岸壁		120	3.5	1,000×1
南ふ頭南岸壁	37° 48.8' N 138° 16.8' E	60	3	700×1	

**避泊上の注意** 風向が東から南に変化すると、強風となることが多い。

**補給** 清水の補給ができる。

**海上交通** 直江津港との間にジェットfoil便がある。(冬季運休)

## 第8節 新潟港～龍飛埼 (海図W144)

## 新潟港～酒田港 (海図W145)

**概要** この間には、岩船港、鼠ヶ関港、大波渡湾、由良港 (38° 43.2' N 139° 40.7' E :海図W1153) (港則法適用港) (JP YUJ)、加茂港などがある。荒川は、阿賀野川河口の北東方約18Mの所で海に注ぐ。

距岸1Mで、おおむね20m以上の水深になる。加茂港～酒田港間は砂浜が続いている。

**大波渡湾** (38° 41.3' N 139° 38.1' E) は、鼠ヶ関港の北北東方約9M、波渡埼 (灯台がある) の東側にある開湾で5m以上の水深があり、東～南の風のときの仮泊地になるが、大波のあるときには錨泊できない。

## 目標

地物名	概位	備考
石油開発台	38° 07.9' N 139° 20.3' E	白灯4基 (岩船港沖石油掘削塔灯) がある。台から南西方へ、陸岸に至る海底管 (油) がある。
大島埼	38° 23.4' N 139° 27.3' E	埼上の山は高く、埼の前面に大島 (赤茶色の小岩島) がある。
粟島	38° 27.2' N 139° 14.3' E	島頂の小柴山 (高さ266m) は島の中央からやや南寄りにあり、灯台がある。西岸はほとんど岩海岸で、東岸は群石岸が多い。
月山	38° 33.0' N 140° 01.6' E	高さ1,984m
無線塔	38° 36.8' N 139° 35.3' E	2基、それぞれ赤灯を点ずる。
温海《アツミ》岳	38° 37.2' N 139° 37.8' E	高さ736mで鋭頂
立岩	38° 38.8' N 139° 35.7' E	高さ59mの黒色突岩
留棹庵《リュウトウアン》島	38° 41.3' N 139° 37.1' E	高さ3.7m、灯標がありレーダの目標に良い。
荒埼	38° 45.8' N 139° 43.4' E	灯台がある。

## 目標

地物名	概位	備考
煙突	39° 47.1' N 140° 02.9' E	高さ189m、赤白塗、火力発電所構内
展望塔	39° 45.2' N 140° 03.7' E	高さ143m、セリオン
煙突	39° 44.6' N 140° 03.5' E	高さ101m、赤白塗、製紙工場構内

**針路法** 北方から入港する場合は、塩瀬崎の南方約2Mから針路105°で進み、秋田区の火力発電所にある煙突（目標の項参照）を095°に向首して、第1区入口に接近する。

南方から入港する場合は、針路000°で寒風山に向首して進み、秋田区に近づくころ火力発電所の煙突が見えてくるので、それを095°に見て変針、以後、同煙突に向首し第1区入口に接近する。

入口に近づいたならば、第2南防波堤先端部及び新北防波堤北西方約0.8Mから約6.1M付近の定置網（黄色浮標（黄灯付）4個付）に注意して、製紙工場の煙突（目標の項参照）を目標にして南、北両防波堤の中央を進み、掘下げ水路を通過して岸壁へ向かう。

**入港上の注意** 北西風の強吹時の入港は危険であり、大雨の後には、入口付近で約2knの外方へ向かう流れがあるという。夜間は、旧北防波堤先端の標識灯（39° 45.7' N 140° 02.6' E）（緑色）は、光力が弱く見えにくいので注意を要する。

## 港則

	信号	目的地に関する記号	信文
進路表示信号（平成7年海上保安庁告示第35号）及び船舶自動識別装置の目的地に関する記号（平成22年海上保安庁告示第94号）	2代・N	N	秋田北防波堤灯台から旧北防波堤先端まで引いた線以北の係留施設に向かって航行する。
	2代・E	E	旧北防波堤先端から99°に陸岸まで引いた線（以下「A線」という。）以北の係留施設に向かって航行する。
	2代・E・N	EN	ENEOS 栈橋に向かって航行する。
	2代・E・C	EC	A線の南側の旧雄物川東側の中島岸壁から下浜ふ頭に至る間の係留施設に向かって航行する。
	2代・E・S	ES	A線の南側の旧雄物川東側の寺内ふ頭以南の係留施設に向かって航行する。
	2代・W	W	A線の南側の旧雄物川西側の係留施設に向かって航行する。

## 港湾施設

名称	概位	長さ（約m）	水深（約m）	係船能力（D/W×隻）	備考	
外港	外港—13m 1号岸壁	39° 45.9' N 140° 02.4' E	270	12.5	50,000×1	クレーン
	外港—13m 2号岸壁	39° 46.1' N 140° 02.3' E	260	13	40,000×1	コンテナクレーン
飯島	飯島—11m 岸壁	39° 46.9' N 140° 02.1' E	190	9.5~10.5	18,000×1	
	飯島—7.5m 岸壁	39° 46.9' N 140° 02.2' E	260	3.5~7	5,000×2	
	飯島—5m 岸壁	39° 47.2' N 140° 02.2' E	130	4~4.5	1,000×1	
大浜	大浜—4.5m 1号岸壁	39° 46.2' N 140° 02.9' E	60	3	700×1	
	大浜—4.5m 2号岸壁	39° 46.2' N 140° 03.0' E	60	2~3	700×1	
	大浜—10m 1号岸壁	39° 46.4' N 140° 03.0' E	185	9.5~10	15,000×1	
	大浜—10m 2号岸壁	39° 46.2' N 140° 02.9' E	185	9~9.5	15,000×1	
	大浜—10m 3号岸壁	39° 46.0' N 140° 02.9' E	185	9~9.5	15,000×1	

本 港	中島1号岸壁	39° 45.3' N 140° 03.5' E	161	8.5~9	10,000×1	
	中島2号岸壁	39° 45.4' N 140° 03.4' E	185	9.5	15,000×1	
	中島3号岸壁	39° 45.5' N 140° 03.3' E	185	9~9.5	15,000×1	
	北ふ頭A岸壁	39° 45.3' N 140° 03.5' E	122	6~7	5,000×1	
	北ふ頭B岸壁	39° 45.3' N 140° 03.6' E	155	6~6.5	5,000×1	
	南ふ頭C岸壁	39° 45.2' N 140° 03.6' E	155	4.5~5	2,000×1	
	南ふ頭D岸壁	39° 45.1' N 140° 03.6' E	90	5.5	2,000×1	
下浜-5m岸壁		39° 45.0' N 140° 03.8' E	345	3.5~5	1,000×4	魚市場がある
内 港	寺内ふ頭岸壁	39° 44.7' N 140° 04.0' E	200	6~7	5,000×2	
向 浜	向浜-7.5m 1号岸壁	39° 44.9' N 140° 03.7' E	130	7	5,000×1	
	向浜-7.5m 2号岸壁		130		5,000×1	
	向浜-10m 1号岸壁	39° 45.0' N 140° 03.4' E	186	8.5~9	15,000×1	
	向浜-10m 2号岸壁	39° 45.1' N 140° 03.3' E	186	8~8.5	15,000×1	
	向浜-10m 3号岸壁	39° 45.2' N 140° 03.2' E	185	8.5~10	15,000×1	
	向浜-12m岸壁	39° 45.3' N 140° 03.1' E	240	12	30,000×1	

最大入港船舶 2023年10月29日、客船 MSC ベリッシマ (171,598 t、喫水 8.7m) が中島2号・3号岸壁に着岸した。

錨地 危険物積載船が錨泊するときは、第2区に錨泊しなければならない。

#### 海事関係官公署

官公署名	連絡先	官公署名	連絡先
秋田海上保安部 (港長)	018-845-1624	横浜植物防疫所新潟支所秋田出張所	018-845-1411
函館税関秋田船川税関支署	018-845-0735	仙台検疫所秋田船川出張所	018-846-8280
東北運輸局秋田運輸支局	018-863-5811	秋田県秋田港湾事務所	018-845-2021
仙台出入国在留管理局秋田出張所	018-895-5221		

引船 引船がある。

補給 清水、燃料油の補給ができる。給油船がある。

#### 医療施設

名 称	電話番号	備 考
市立秋田総合病院	018-823-4171	
秋田厚生医療センター	018-880-3000	

海上交通 敦賀港・新潟港及び苫小牧港との間にカーフェリー便 (18,229 t) がある。